

会 議 録

会 議 の 名 称	第1回枚方市ふるさと寄附金推進事業支援事業者選定審査会
開 催 日 時	令和7年5月23日（金）午後1時30分から4時00分まで
開 催 場 所	枚方市役所別館4階 特別会議室
出 席 者	佐野委員（会長）、高橋委員（副会長）、亀岡委員、中島委員、新田委員
欠 席 者	－
案 件 名	(1)事業者の応募状況について (2)参加資格審査について (3)プレゼンテーションについて (4)採点・評価結果について (5)答申について (6)その他
提出された資料等の 名 称	【資料1】委託契約予定事業者募集に係る質疑・回答 【資料2】申請事業者一覧 【資料3】参加資格について 【資料4】選定審査表 【参考資料1】プレゼンテーション進行表 【参考資料2】審査・採点の方法、考え方に係る補足説明資料
決 定 事 項	・枚方市ふるさと寄附金推進事業プロモーション業務の最優秀提案者（契約候補者）にアイハーツ株式会社を選定する。
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	非公開 枚方市情報公開条例第5条1項第6号に該当するため。
会議録等の公表、非公表 の別及び非公表の理由	本審査会の答申後に公表
傍 聴 者 の 数	－
所 管 部 署 （ 事 務 局 ）	市長公室 広報プロモーション課

審議内容	
《総括》	
【開催可否】	会議の開催について、委員全員の出席により会議が成立していることが確認された。
【案件(1)】	事業者の応募状況について資料1～3を使用し、事務局から説明を受けた。
【案件(2)】	全申請事業者について参加資格を確認し、全事業者において事務局から問題ない旨の報告を受けた。
【案件(3)】	プレゼンテーションの流れ及び採点方法について、資料4及び参考資料1・2を使用し、事務局から説明を受けた。その後、2事業者によるプレゼンテーション20分、質疑回答15分が行われた。
【案件(4)】	点数の確定後、最優秀提案者を決定した。
【案件(5)】	案件(4)に基づき、答申を行った。
【案件(6)】	令和6年度第4回審査会の資料を、本審査会の資料と併せて公表することを決定した。
《質疑応答等》	
【案件(3)】	
(事業者1)	
亀岡委員：	昨年度、同業務を実施いただいたが、目標金額に達成しなかった要因をどのように分析されているか。
事業者1：	昨年度目標金額未達成となった要因の一つとして、枚方市の返礼品を認知させる部分が足りなかったと思っている。「認知」から「獲得」という流れになるが、思ったより認知がされていなかった。昨年度は「認知」の部分に力を入れたため、「獲得」が薄くなってしまったと考えている。
亀岡委員：	企画提案書内のプロモーション戦略で「決定」とあるが、「決定」の部分について詳しく教えてほしい。
事業者1：	企画提案書記載のストアマッチプロや必須条件であるRPP広告については実施していく。その他のポータルサイトの広告については、ポータルサイトごとの寄附状況を見ながら協議していきたい。
佐野会長：	Amazonポータルサイト（以下、「Amazon」という。）は現時点では様子を見たいとのことだが、その理由を教えてほしい。
事業者1：	Amazonはポイントがないため、9月末のポイント廃止による動きがあるかが分かっておらず、そこを見極めたいと考えている。また、Amazonが昨年末ぎりぎりにポータルサイトを立ち上げたこともあり、各自治体の準備ができていなかった。また、外資系であることなどから日本の自治体の仕組みにそぐわないことが多く、Amazonの積極的な活用を控えたいという各自治体の傾向が強い。4大サイトで寄附全体の約8割を占めている現状などから状況を見守り、Amazonが

そこに対抗してくるのであれば、12月にはしっかり対策を行っていく必要があるため、今は協議内容とさせてほしいとしている。

佐野会長： Amazonに将来的な可能性はあるとお考えか。まだまだ先か。

事業者1： Amazonについては、まだ先であるのではないかと考える。

佐野会長： 昨年度も実施した雑誌掲載について、実際、雑誌経由の寄附は非常に少なく、効果があったとは言い難いが、昨年度に比べ見積り上では費用が増額されている理由を教えてほしい。

事業者1： 雑誌掲載費用の元の定価がこの費用であるため、その額で計上している。返礼品のサムネイルやライティングの費用も含んでいるため、バナー作成もこの費用に含まれている。

佐野会長： 雑誌についてあまり効果として実感がないが、効果があるとお考えか。

事業者1： 効果を「寄附額」として捉えられてしまうと、ないと言わざるを得ない。ただし、事業者の元へ足を運ぶ、写真が撮れる。そして、雑誌は手に残るものになるため、事業者のやる気、モチベーションアップにも繋がると考えているため実施していきたいものである。

佐野会長： 取材を受けたり、雑誌でクローズアップされたりすることで、事業者のモチベーションアップに繋げるという思惑があるということか。

事業者1： 思惑としてはそれもある。

佐野会長： 画像制作やライティング費用について教えてほしい。

事業者1： 4カット×記載品目のとおりであるが、ポータルサイトごとの規格サイズがあるので4大サイト分の4カット×記載品目×4を想定している。

高橋副会長： 9月末にポイント制度がなくなった後のふるさと納税制度の大きな動きを教えてほしい。

事業者1： 今年度だけの動きでいうと、10月は閑古鳥が鳴く状態だと思っている。11月～12月に次の山が来る。12月に年収が確定することもあり、8割ぐらいまでを9月末までに寄附し、残りの2割を12月に行うのではないか。ポイント還元を謳っているサイトは特定のサイトであることから、最大の山は9月だが、その7割ぐらいの山が12月に来るのではないかと考えている。

高橋副会長： ポイントがなくなった時に、どのサイトが活性化してくると思われるか。

事業者1： ポイントなどがなかった時代の初期からあるふるさとチョイスではないかと思うが、ポイントがなくなったからといって、いままで利用していたサイトを急に利用しなくなることはないと思う。ついては、寄附額が落ちるとは思うが楽天でも継続的に寄附獲得はされていくと思う。

高橋副会長： そのような変動に合わせて、予算も含め対応していただけるという理解で良いか。

事業者１： 認識のとおりである。

高橋副会長： 雑誌について、昨年度も同様の施策を行っていただいていた認識であるが、昨年度のコンテンツを流用すると、費用が少し下がるのではと思うが、そのあたりはまた取材に行くということか。

事業者１： 我々の強みが「取材力」である。１～２品流用することもあるかと思うが、昨年度掲載していない事業者にも取材させていただくことで、市としても素材が集まるというメリットがあると考えている。

高橋副会長： 今年度の新しい取り組みとしては、ダイレクトメッセージの送付、インスタ開設、キャンペーンを行うの大きく３つである認識であるが間違いないか。

事業者１： あとはサムネイルの制作などがある。昨年度はポータルサイトに来てからの動きが正直悪かったので、動きを活性化するようなページ作りを提供したいと考えている。

高橋副会長： 昨年、寄附してくださった方にリピーター獲得という意味合いで広告を当てていくことはできるのか。

事業者１： デジタル広告という意味合いでは難しいと思う。デジタル広告は個人の特定が全くできないものになっているため、昨年の寄附者へは郵送などの紙ベースのものを送った方が反応は良いと考えている。昨年配信したユーザー宛に、再度配信することは広告の仕組み上できるため、昨年のデータを利用することはできる。

(事業者２)

佐野会長： オンライン広告以外のオフライン施策について、市内での実施イベントなどは参加者の多くは市民が占めるのではないと思うが、そのあたりの攻略策を教えてほしい。また、食品ジャンルを中心に返礼品の登録を増やすという点について、市にとっては喜ばしいことであると思うが、具体的にどういうものを想定しているのか。それらの供給体制が整っているのか。また、食品は寄附額が少額なものが多いかと思うが、昨年度の寄附額からの底上げにどれほどの可能性があると考えているか教えてほしい。

事業者２： オフライン施策の戦略については、やってみないと分からないところもあるが、枚方市の観光事業で関わらせてもらう中で、市民だけでなく近隣市の住民の方も来られる機会があるのかなと考えている。単独でイベントをするのではなく、まずは普段我々が実施しているイベントでブースを設けるなどすることで、コストなく試験的に効果検証ができるかなと感じている。

佐野会長： 東京や大阪、京都など他府県へ出向いていくことは考えているか。

事業者２： まずは市内でと考えている。他市との連携が可能であれば、他市へ出向いてのPRも検討していきたい。また、食品ジャンルについては年末需要を見込んだおせち料理やクリスマスなど、年末の寄附額が伸びる頃に向けた食品ジャンルの新規開発ができればと考えている。

亀岡委員： 参加資格要件において、同様もしくは類似する業務についてより詳細を教えてほしい。

事業者２： 観光に特化した法人で観光系のプロモーションの実績がある。大阪観光局と一緒に枚方市のツアーのPRを行ったり、枚方市の観光に関わるイベントの開催及びPRを行ったりしている。

亀岡委員： 枚方市内での実施イベント以外で、他市からの依頼を受けて実施した業務はあるか。

事業者２： 実績はない。

新田委員： 見積りの中の、印刷物・ノベルティ１式とあるが具体的にどのような活用を想定されているのか。また、クリエイティブ制作で商品数を挙げていただいているものについては、企画提案書内にある新規の商品開発分として挙げていただいているのかと思われるが、枚方市の既存の返礼品で寄附金額ランキングが上位のものや人気返礼品などがある中で、既存の返礼品の画像制作やPRのための広告物の制作なども行っていただけるのか。

事業者２： 印刷物・ノベルティについてはオフライン施策のPR訴求に係るパンフレット・チラシなどの印刷物の制作を想定している。クリエイティブ制作については、正直寄附額が上位の返礼品についてはテコ入れの必要があまりないとは思っているが、寄附金額は少ないがポテンシャルがある返礼品などについてはクリエイティブの余地があると考えているため、費用内で対応したいと考えている。

佐野会長： ９月末にポータルサイト上でのポイント付与が廃止される予定で、そのため９月にも一度ピークが来るような動きをすると考えられるが、それらの見込みや対策はどのように考えているか。

事業者２： まだ対策は検討していない。随時検討していきたい。

中島委員： 法人として枚方モールにある観光案内所も運営されていると思うが、令和７年度中に同案内所でどのようなイベントを実施予定か。また、法人の体制をお教えいただきたい。

事業者２： 観光案内所内で、年次で計画しているイベントはいまのところない。ただし、契約内容ではワークショップは何度か開催しなければいけない条件であるため、そこでふるさと納税を絡めることはできる。また、補足だが、観光案内所に加え、案内所前の広場も今年の４月から弊社の管理

となったため、そちらでもイベントなどを行っていただければと考えている。

法人の体制については、役員が代表を含め5人、社員は3人。後は、案内所で勤務しているスタッフのアルバイトが5人である。

高橋副会長： 収益構造について、どの収益が一番大きいのか教えてほしい。

事業者2： 我々は、まだ社として歴が浅いため現在事業の拡大を行っている最中である。収益構造については、「収益」でいうと、観光案内所とイベントで半分半分ほど、「収入」でいうと案内所の方が多くを占めている。

新田委員： イベントなどについては観光関係で実績があると思うが、SNS運用やインターネット広告運用などの経験はあるか。経験がある場合は、どういった形で携わっていたのか教えていただきたい。また、ふるさと納税のポータルサイトも色々あると思うが、どこに注力をしていきたいか教えていただきたい。

事業者2： クリエイティブ制作の経験やノウハウについて、団体としてはないが、自身が別事業でWEB制作業を行っており、広告運用や画像撮影、画像制作の対応は行っている実績があるため、しっかり対応していきたい。どこに注力するかについては、PDCAサイクルを回しながら決めたい。楽天もだが、一番効果が高いところに注力できればと考えている。

【案件4】 （審査集計の結果報告）

事務局： 審査集計の結果について、1番が申請事業者1の418点で下限点数である300点以上を満たしていることを確認した。なお、次点の優秀候補者は該当なしである。

佐野会長： 事務局から報告のとおり、委員の皆様の採点結果を審査基準と照合して、条件を満たしていることが確認できたため、本審査会として、事業者1のアイハーツ株式会社を最優秀提案として選定することを確認したいと思うが、よろしいか。

出席委員： 異議なし。

【案件6】

事務局： 令和6年度第4回審査会でご確認いただいた提出資料の取り扱いであるが、枚方市情報公開条例第5条の規定による非公開情報が含まれるもの、すなわち、「公にすることにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるもの」に該当するとして、答申をいただくまで非公開としてきたが、本日、答申をいただいた後、公表に向けた手続きを進めていく。

佐野会長： 提出資料の公表は、会議録を含めたすべての資料が揃った時点で、一括で公表した方がよいのではないかと考えるが、委員の皆様いかがか。

出席委員： 異議なし。

佐野会長： それでは、すべての資料が揃った時点で、一括で公表という形でお願いしたい。公表に向け、会議録については、事務局で作成後、委員の皆様へ確認をお願いする。

事務局： 速やかに会議録作成に取り組み、委員の皆様にご確認いただいたのち、公表する。